

命をつなぐ救急救命

「呼ぶ・呼ばないの選択」

毎日どこかで救急車のサイレン音を耳にしませんか？先日、大島郡医師会主催の救急医療協議会が開催され、柳井地区消防署の令和2年1年間の救急出動は3214件との報告がありました。そのうち周防大島町は1204件で、高齢者が8割を占めるとのこと。単純計算すると、毎日町内で3台の救急車が出動し、高齢者2人が医療機関に搬送されていることとなります。何気ない暮らしの中で、医師や救急隊、救急救命士の方々に守られている命を実感しました。



救急車を呼ぶ時

救急搬送の大きな目的は「救命」です。文字通り、命を救うため、昼夜を問わず一刻も早い処置や治療を施す必要がある方のもとに駆けつけ、医療機関等へ緊急に搬送してくれます。

消防庁では「急なケガや病気、救急を要するもしもの場合は、迷わず『119』番に通報し、救急車を要請してください」と広報しています。連絡の際には、「救急」であることを伝え、来て欲しい住所や場所、症状を知らせることがポイントです。

救急車を呼ばない時

しかし近年、悩ましい問題として挙げられているのが、人生最終段階にある療養中の高齢者や終末期の方の救急救命です。本来、「延命措置」を望んでいない方であっても、救急車を要請すれば心臓マッサージ等の心肺蘇生や命を取り留めるための処置が行われます。救急車を呼んだ時点で、「命を救って欲しい」という要請があったとみなされ、到着した救急隊員の判断では処置をしない、または中断することはできないそうです。

在宅での「看取り」を希望される場



合は、容体の急変時には救急車を呼ばず、主治医に連絡を。大切なのは本人の意思を踏まえ、家族や回りの方々が同じ心づもりで対応できるように、しっかり話し合っておくことです。

いよいよ来月は新学期、新年度が始まります。一つの節目に立ち、改めて“人生の有終の美を飾る”ための健康づくりを推進していきたいと感じています。新たなスタートの合言葉も「ちよび塩でおいしく、運動・活動で元気」。

●ちよび塩クイズ

ちよび塩の大きな目標は、心疾患や脳血管疾患等の予防です。そこで問題。令和元年度の心臓手術1回の中で、最も高額なものはいくらだったでしょうか。

- ①約200万円
- ②約400万円
- ③約600万円

(答えは、11ページに掲載)

■問い合わせ

健康増進課 健康づくり班

☎0820(73)5504

タケノコを出荷してみませんか！

4月はタケノコの収穫の季節です。タケノコを掘って、出荷してみませんか？発生したタケノコを放置すると、竹林は拡大し、隣接地や農地などに侵入していきます。その駆除に苦勞されている方も多いと思いますが、タケノコを掘って出荷すれば、竹林の拡大防止と収入の一挙両得です！

タケノコの掘り取りには唐鍬トウクわを使います。タケノコの腹面から鍬で掘り、地下茎の接合部のやや上から切断します。鍬傷をつけると、タケノコの商品価値が極端に落ちるので、傷をつけないように掘り取ることが大切です。掘りとったタケノコは、日光に当てないようにし、できるだけ早く選別を行い出荷します。

集荷は、4月に入ってから週3回程度、JA山口県周防大島統括本部の各支所または、ふれあい店舗にて荷受けされる予定です。出荷にあたっては、事前に登録が必要となりますが、最寄りのJA山口県周防大島統括本部の各支所または、ふれあい店舗に行けば、どなたでも登録して出荷できます。

なお、タケノコの出荷規格等についてはお問い合わせください。

■問い合わせ

JA山口県周防大島統括本部指導販売課

☎0820(72)0970

岩国農林水産事務所森林部
☎0827(29)1565